

試験研究成果普及情報

部門	資源管理・増養殖	対象	研究
課題名：アサリ天然採苗技術の開発			
<p>[要約] 東京湾の干潟において、アサリ天然稚貝の集積を促進する敷設材の設置によるアサリ天然採苗技術を開発した。基質を入れた網袋や人工芝を敷設材として使用することで、周辺の干潟域より高密度に捕集できることが明らかになった。本技術で捕集した稚貝を保護・育成することにより、放流用種苗の安定した生産への活用が期待できる。</p>			
キーワード アサリ、天然採苗、網袋、人工芝			
実施機関名	主 査	水産総合研究センター東京湾漁業研究所	
実施期間	2012年度～2014年度		

[目的及び背景]

本県のアサリ漁業の年間生産量は、かつて1万トン以上であったが、近年は1千トンを下回るなど低迷している。東京湾では毎年、アサリの稚貝が発生するものの秋冬季に波浪等の影響により生き残りが低下している。このため天然で発生する稚貝を確保して、一定のサイズまで保護・育成した後に放流することが有効な方法と考えられることから、稚貝を効率良く捕集する技術の開発を行った。

[成果内容]

- 1 カキ殻による粒状の成形材（あるいは砂利）を入れた網袋と人工芝を干潟に設置し、アサリ天然稚貝を捕集する試験を実施した。
- 2 網袋（写真1）と人工芝（写真2）は周辺の干潟域より稚貝を高密度（周辺域に対して概ね5～30倍）に集めることが可能であり、10 m²の設置で稚貝を4～8万個採苗できる（図1、図2）。
- 3 網袋は春夏季に採苗効果が高く、人工芝は周年安定した効果が見られた（図2）。
- 4 設置方法は、網袋では干潟に平置きする方法、人工芝では上下方向に遊動できるように設置する方法（写真3）が最も効果的と考えられた。

[留意事項]

本成果は木更津市久津間地先における試験に基づいているため、他地区で実施する場合、場所に適した方法を検討することが望ましい。

[普及対象地域]

東京湾千葉県内湾地区

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]



写真1 網袋



写真2 人工芝(干潟固定)



写真3 人工芝(鉄筋を通じ上下に遊動)

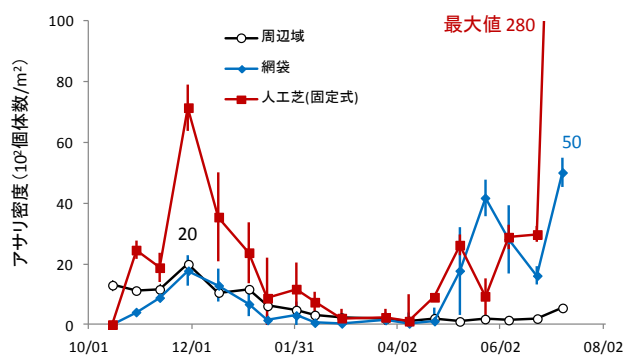


図1 アサリの捕集密度

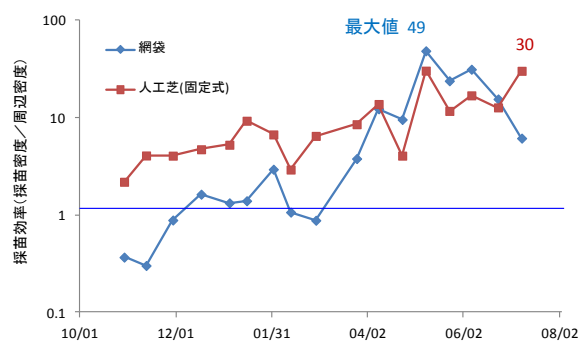


図2 アサリの捕集効果 (周辺域と比較)

[発表及び関連文献]

2013年9月 平成25年度日本水産学会秋季大会で成果を発表

2014年10月 日本水産増殖学会第13回大会で成果を発表

[その他]

農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業委託事業「課題名：地域特産化をめざした二枚貝垂下養殖システムの開発」で実施した。